

令和7年度第1回京都府農林水産技術センター評議委員会

令和7年9月1日(月) 14:00~16:30
京都府庁 3号館 第7会議室

次 第

- 1 開会あいさつ
- 2 評議委員紹介
- 3 新規課題の設定 及び 評議委員会の持ち方の見直しについて
- 4 協議事項
 - (1) 令和6年度 終了課題評価
 - (2) 農林水産技術センター中長期研究計画(案)について
 - (3) 令和8年度 新規課題の重点化方針について
- 5 報告事項
 - (1) 令和7年度F F研究課題
 - (2) 令和7年度タスクチーム活動
 - (3) 競争的資金への応募状況
- 6 閉会あいさつ

令和7年度第1回京都府農林水産技術センター評議委員会出席者名簿

令和7年9月1日(月)14時～
京都府庁3号館 第7会議室

◇評議委員

板井 章浩	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 教授	
美濃羽 靖	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 教授	
前田 秋彦	京都産業大学生命科学部産業生命科学科 教授	
三田村 啓理	京都大学フィールド科学教育研究センター 教授	
飯田 訓久	京都大学農学研究科 教授	
深見 治一	京都先端科学大学 名誉教授	
北村 實彬	NPO法人 近畿アグリハイテク副理事長	
牧 克昌	京都府農業協同組合中央会代表理事専務	御欠席
川村 幸子	京都府生活協同組合連合会理事	
齋藤 三映子	有限会社 エスアールフードプロデュース代表取締役	

◇京都府

小瀬 康行	農林水産部 部長
加茂 雅紀	農林水産部 流通・ブランド戦略課長
松本 静治	農林水産技術センター センター長
山崎 むつみ	農林水産技術センター 生物資源研究センター所長
平野 幹典	農林水産技術センター 畜産センター所長
栗屋 克彦	農林水産技術センター 海洋センター所長
竹本 哲行	農林センター 栽培技術開発部長
小西 あや子	農林センター 環境部長
村瀬 悟史	農林センター 森林部 次長
芝原 淳	農林センター 森林部 主任研究員
中村 一友	農林センター 丹後特産部長
堤 保三	農林センター 宇治茶部長
四方 紀良	生物資源研究センター 応用研究部長
西井 真理	畜産センター 研究・支援部長
宮嶋 俊明	海洋センター 研究部長
藤田 信也	流通・ブランド戦略課 参事
榎森 勇輝	流通・ブランド戦略課 フードテック・研究推進係 係長
北尾 悠樹	流通・ブランド戦略課 フードテック・研究推進係 副主査
中澤 尚	農林水産技術センター企画連携室長
上山 圭子	農林水産技術センター企画連携室 主任研究員
門馬 悠介	農林水産技術センター企画連携室 副主査
井尻 夏子	農林水産技術センター企画連携室 主任
堀川 琴音	農林水産技術センター企画連携室 技師

令和7年度第1回京都府農林水産技術センター評議委員会概要（抜粋）

1 日 時 令和7年9月1日（月） 14:00～16:30

2 場 所 京都府庁3号館 第7会議室

3 農林水産技術センター中長期研究計画（案）－研究方針－について

- ・京都府農林水産ビジョンの施策及び京都フードテック基本構想を実現するため、おおむね10年後を見据え、直面する社会的・技術的課題の解決に向けて、重点的に取り組む研究テーマを整理するとともに、大学や民間等との連携を図り、高レベルな研究開発を進める体制強化の方向性を示す計画を令和8年1月を目途に策定する。計画期間は令和8年度から令和17年度までの10年間。
- ・第1回の評議委員会では「研究方針」について、第2回では「研究の推進体制」について協議を行う予定。

<中長期研究計画 3つの研究の方向性>

- 1 気候変動やSDGsへの対応など京都府の農林水産業を支えるフィールド研究の強化
- 2 京都の農林水産業にマッチしたスマート技術の開発
- 3 新たな需要創造に向けた新品種の育成や生産技術の開発、商品加工研究の推進

【主な意見】

- 生産基盤である農地の持続性と、生業としての持続性を強化することが現在の最重点課題。土壌の健全性の持続や保全農業の部分が弱い。生産基盤の持続性に軸足を置く計画を立ててはどうか。
- 綾部移転の意義は、畜産業との連携により、保全農業や気候変動適応型の研究ができる条件が揃うこと。中山間地域をキーワードとして、畜産業としての放牧にとらわれず、放牧酪農や家畜による雑草管理、鳥獣の警戒手法として、地域の中でどうすれば持続性が担保できるかという縦軸の視点で、研究課題を検討してはどうか。また、農業大学校が併設しているので、学生に成果が普及できるという恵まれた環境が作れることもあげられる。
- 自然科学系の人との共同研究による技術開発ばかりではなく、社会科学系の人などと組むことにより、成果を普及・社会実装し、地域活性を図ること

とも大切である。研究に入る基盤作りで汗をかいてはどうか。

- 現状値は書かれているが、将来の予測値を追加して、そのためには何を重点的に研究すればよいかといった観点で、記載してはどうか。スマート技術の開発について、農林水産技術センターには ICT 技術者がいないため、どこの企業や大学と組んで研究をするか想定が必要。
- 研究方向が京都府の伝統野菜の改良ばかりになっているが、今の気候で栽培するのは困難。新しい作物の導入や、施設の大規模化など新たな観点に切替えることも必要。
- 5～10年で確実に起こるのが水温の上昇で、それにより魚種が動く。これをどう捉えるか注目したい。アカモクが出ているので、ブルーカーボンは研究されるのかなと思う。他の県でも読み取れる内容なので、京都らしさを出していただきたい。
- 暑熱対策などの気候変動適応やスマート技術、需要創造によりブランド力を高めることも大事であり、この3本の方向性でいいと思う。各地域に特色があるので、地域に根差したブランドをアピールして、観光客を呼び込めるシステムができればよいと感じた。
- 他の分野は京都府らしさが見られたが、森林はオーソドックスかつ、農技 C が取り組むには大きな課題のように思う。また、林業の担い手が少ないのは、林業の現状や儲かるという情報が伝わっていないことが理由と思う。林業の差別化、京都のブランド化など「儲かる」という視点での研究を取り入れてもらいたい。